資　料

看護基礎教育におけるポートフォリオの活用状況と学生による評価に関する文献検討
－小児看護学教育への活用に向けて－

Literature Review on the Use of Portfolios and Evaluation by Students in Basic Nursing Education : Toward Their Use in Pediatric Nursing Education

藤田　千春[1)]　永田　真弓[2)]　廣瀬　幸美[2)]
Chiharu Fujita　Mayumi Nagata　Yukimi Hirose

キーワード：ポートフォリオ、看護基礎教育、学生評価、小児看護学
Key Words：portfolio, basic nursing education, student evaluation, pediatric nursing

Ⅰ　はじめに

近年の看護専門職の教育では、看護を取り巻く幅広い知識の学習や、社会や環境との関係において自己を理解するための素養等の教養教育を前提に、医療の高度化や看護ニーズの多様化に対応できる人材育成が求められている。それには健康の保持増進・疾病予防等の看護の基礎教育と専門職としての自発的な能力開発を継続するための能力の育成が必要である[1)]。自発的な成長や意欲の向上に寄与するものとしてポートフォリオがある[2)]。ポートフォリオとは、紙ばさみを意味し、自分がこれまで行ってきた活動・成果をファイルにし一元化したものである。ポートフォリオを用いることにより、授業の中で学生個人が何を学んでいるかが明らかになり[3)]振り返ることで、自分の課題や目標を明確化できる[4)]。また、ポートフォリオを用いた自己評価は、自身の振り返りだけでなくチームメンバー、教員等からの多面的評価を受けることができ、成長につながる[2)]と言われている。これまで一般的に行われている学習評価は、教員が設定した課題を学び、その習得状況をレポートやテストで測定するというものが多く、学生は最後のテスト・レポートで学びを完結する状況にあった[5)]。しかし看護学では、多様な健康状態にある人々の理解と看護について追究するために学びを積み上げていくことや、学習を自己評価して研鑽を継続することが求められているため、自己評価・教員評価という多面的評価が可能[2)]なポートフォリオを用いた学習を取り入れていく必要性がある。最近の看護基礎教育では、実習体験をポートフォリオによって自己内省することによる学習の評価[6)]やwebを通じていつでもどこからでも利用できるeポートフォリオの検討[7)]がなされている。

小児看護学は対象特性として著しい成長・発達段階にある小児とその家族を理解することや、様々なコミュニケーションレベルの小児とその健康への支援を学ぶことが必要とされている。例えば実習においては小児とその家族を受持ちながら看護の学びを深めていくが、言語的コミュニケーションが未熟な年代の小児とその家族のニーズを捉える事や反応の意図を読み取ることが難しく、指導が必要な学生が存在している[8)]。ポートフォリオを用いることは、小児の反応を学生とともに振り返り、このような学生の学習プロセスにアドバイスできることから、看護学生が小児看護を効果的に学ぶツールとして活用できると考えられた。今後、ポートフォリオを小児看護学の教授に取り入れていくことが必要とされるが、現時点で小児看護学における実践報告はない。小児に関する基礎教育でのポートフォリオを用いた教授では、医学科生の小児科臨床実習[9,10)]での実践報告にとどまっている。また、国内の看護文献におけるポートフォリオの活用の現状とポートフォリオ評価に関する文献を分類したもの[4)]はあるが、看護基礎教育における教授の方法や教授に用いているポートフォリオ内容による分類、学習にポートフォリオを用いた学生による評価を検討しているものはみられない。

そこで本研究の目的は、看護基礎教育におけるポートフォリオの活用の実際とポートフォリオに対する看護学生の評価について明らかにし、看護基礎教育におけるポートフォリオの効果的な活用および小児看護学教育への活用の示唆を得ることとした。

Received : October.　31, 2012
Accepted : February.　20, 2013
1）横浜市立大学医学部看護学科小児看護学　　2）横浜市立大学医学部看護学科・大学院医学研究課看護学専攻小児看護学

Ⅱ　研究方法

1. 文献検索方法

文献検索方法は医学中央雑誌、国立情報学研究所論文情報ナビゲーター（CiNii）の文献検索システムにより、本邦の看護界でポートフォリオについて述べられ始めた2000年[4]を過ぎた2002年から2012年までの10年間の文献を検索した。検索語は「ポートフォリオ」、下位に「看護教育」、「看護学生」とし、会議録を除いたものを検索した。

その結果、全133件の文献が抽出された。抽出された文献のうち、抄録を精読し、看護学生を対象にポートフォリオについての評価が明らかになっている研究論文（原著論文、研究報告、実践報告、資料）を選定した。最終的に14件を分析対象とした。

2. 倫理的配慮

文献の著作権を遵守し、原著や原論文に忠実であることに努め、その引用と参考の方法に配慮した。

3. 分析方法

対象となる14件の収載誌発行年とポートフォリオを用いた専門分野、研究デザインを概観した。また、対象文献を精読しその内容から、複数の研究者で看護基礎教育のカリキュラムに基づいて分類し、さらに「ポートフォリオを用いた教授の方法」、「ポートフォリオの内容」「ポートフォリオを用いて学習した学生の評価」の詳細を検討・整理した。

Ⅲ　結果

1. 文献の概要（表1）

1）文献の収載誌発行年と専門分野

対象文献の収載誌発行年は、2010年が4件と多く、次いで2006年が3件、次いで2012年が2件、2003年、2005年、2007年、2009年、2011年は各1件であった。調査している専門分野は一般教養科目[11,12]、基礎看護学[13,14]、老年看護学[15,16]、精神看護学[17,18]、複数の専門分野によって共通展開する臨床看護科目[19,20]、教育課程全般・その他[21,22]が各2件であった。成人看護学[23]、地域・在宅看護学[24]では各1件あったが、小児看護学での調査はなかった。

2）文献の研究デザイン

ポートフォリオを用いて学習した学生による評価を調査した研究デザインを検討したところ、14件のうち4件が量的研究[11,12,21,22]、5件が質的研究[14,16,17,19,20]、5件が量的研究と質的研究を併用したもの[13,15,18,23,24]であった。中でも学生の学びのレポートや質問紙の自由記載欄に意見を求めたもの、自己成長についての記載を質的に分析したものが質的、量的・質的併用の研究を含め9件[13-20,24]見られた。その他に4～5段階のリッカート尺度を用いた質問紙によって学習効果を検討したものや、学生が役立ったこと等の評価を集計したものが量的、量的・質的併用の研究も含めて9件[11-13,15,18,21-24]見られた。

2. ポートフォリオを用いた教授の方法

今回の14文献についてポートフォリオを活用した教授方法を概観すると、シリーズで展開されたものが多く、授業の初回にポートフォリオについて説明が行われていた[11,13-16,18,21,23,24]。看護基礎教育のカリキュラムから一般教養科目、専門科目：講義・演習、専門科目：実習、教育課程全般・その他に分類できたので、分類ごとに内容を述べていく。

1）一般教養科目

一般教養科目では、英語表現（英作文・スピーチ）の講義1件にポートフォリオが用いられていた。12回の授業にshow and tellの手法を用いて、その中にポートフォリオの活用を組み合わせていた[11]。また、ポートフォリオを教授ツールとして活用するためのガイドライン作成に向けて英語学習にポートフォリオ学習を取り入れるニーズについて検討していた[12]。

2）専門科目：講義・演習

ポートフォリオを用いての教授の方法としては9件中8件でグループワーク形式のシリーズで展開された学習が行われていた[13,15,16,18-20,23,24]。さらに、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学の分野では看護過程や事例検討、研究などの演習形式にポートフォリオが用いられていた[13,15,16,18-20,23,24]。特に老年看護学では最終的に学生間に提言したい内容を検討し、凝縮ポートフォリオとして発表していた[16]。一方で、精神看護学では当事者を招いた講義一コマ分に対しても用いられており、この学習はグループワークの形式をとっていなかった[17]。

3）専門科目：実習

基礎看護学実習Ⅰの1件にポートフォリオを用いていた。実習後に感想ラベルを作成した後、毎日のカンファレンスで学びを共有していた。感想ラベルをラベル新聞にし、学内のまとめではグループ全員分のラベル図解を作成・発表するなどの学習を経ていた[14]。

4）教育課程全般・その他

学生の自己成長を目的にクラス運営にテーマポートフォリオを用いたものが1件あった。1年間の中で、各自が目標を立てて意見交換やテーマポートフォリオの作成を行っていった。期間の中でファイルの提出や助言、中間発表会や最終発表会を入れ、共有や助言の機会を設けることでポートフォリオを作り上げていた[21]。また、電子的なポートフォリオを授業に活用できるよう学校全体がシステム化されているものもあった[22]。個人プロフィールや、学びの蓄積、課題提出、参考資料の機能を備え、web上からいつでも活用ができ、実際に試行されていた。

3. ポートフォリオの内容

1）一般教養科目

一般教養科目の英語表現（英作文・スピーチ）1件の授業

表１　ポートフォリオの活用状況と学生による評価

	著者（年代）	調査目的	ポートフォリオ活用状況		学生の評価
			ポートフォリオを用いた教授の方法	ポートフォリオの内容	
一般教養科目	北條礼子 松崎邦守 (2007) 11)	英語表現（英作文・スピーチ）学習における show and tellの手法を用いたポートフォリオの自己調節学習者の養成への効果を明らかにする	show and tell の手法を用いた英語表現12回の授業にポートフォリオを取り入れた。初回：教材の提示と共に説明を行った。学習者は各自2つのテーマを選び、2度ずつスピーチを実施した。	ポートフォリオ作成ガイドライン、ゴールカード、カンファレンスガイド、カンファシート、カンファリフレクションシート、学び愛カード、Useful Expressions、Short Quiz、show and tellアイデアカード、スピーチ下書き及びスピーチ最終原稿シート、ライティング方略、スピーチ方略、メタ認知方略の学習シート	スピーチ方略の使用意識においてがプラスの方向に変容がみられたことから、ポートフォリオ活用学習が自己調節学習の態度養成に効果があることが明らかになった。ポートフォリオ活用学習全体はやりがいなどの評価を受けたが、必ずしも好意的な反応が得られなかった。
	北條礼子 松崎邦守 (2003) 12)	ポートフォリオのガイドライン作成の為の英語学習に対する学習者のニーズを明らかにする	アンケート調査のみのため無し。	アンケート調査のみのため無し	学生はグループ学習の場合、人数は4名が良いと思っており、グループの友達や教員からアドバイスを得たいと考えていた。自己評価は自身にプラスになると考えていた。学生はゴールカードに目標を決めるのに消極さが見られた。ポートフォリオ評価配点は40点程度が良いと考える傾向があった。
専門科目：講義・演習	吉田礼子 (2010) 13)	看護過程展開の理解に対する教授方略の効果を明らかにする	初回時：ポートフォリオのファイル整理の説明を実施、看護過程をステップ毎に区切って事例についての考えをグループでまとめた。その際。教員２名が指導にあたった。計画の実施段階では他グループの前で、具体策をロールプレイングでデモンストレーションし、評価・修正につなげた。看護過程の各段階での振り返りとして気づきと学び記録（できた・できなかったところ、その段階の考え方についてわかったこと）に記述させ、その成果記録（ファイル）提出。	ゴールシート、患者さんについて思ったこと、文献資料、アセスメント、関連図、問題リスト、焦点アセスメント及びその気づきと学び、問題に対して修正した目標と具体策、具体策実施の準備記録、コメントカード一覧、実施記録と目標、具体策の評価（修正分含む）とその気づきと学び、自己評価表、看護過程展開全体の気づきと学び、まとめ	看護過程の理解度は「分かった～何とか分かった」は全項目で90％以上であった。教授方略の役立ち感は「学習の必要事項を考え事前学習したこと」「グループメンバーとの意見交換」が高かった。気づきと学び記録の役立ち感は93.8％であった。中でも「自分の分からなかったところが確認でき、自信になった」や「講義ノートの内容の見直しになった」が見られた。役立ち感が無かったと答えたものは振り返りに時間が取られ看護過程記録の時間が無くなっていた。
	尾ノ井美由紀 伊藤美樹子 白石龍生, 他 (2012) 15)	テスト点数（定量的評価）や自尊感情尺度及び、自己効力間尺度得点とポートフォリオ評価（定性的評価）内容の関連を見ることでポートフォリオ学習効果を立証する	老年看護学概論（15回中８回目から15回目）にポートフォリオ学習を実施。初回：目的や展開方法の講義と学生のビジョンとゴール作成、更に学生の設定したゴールに近い学習項目を選択させチーム作りした。３～６回目：学習計画、情報収集等グループワークを行った。３回目～学生の意見にコメント・アドバイス。７回目：チーム毎で発表と質疑応答、発表は評価対象とした。その後、再構築と成長エントリーについて講義し、チームで再構築をし、学生個々の成長エントリー提出。	学生のビジョンとゴール、学習計画・情報収集・ポートフォリオ作成、模造紙を用いたプレゼンテーション資料、チームでの再構築後学生個々にできたこと、できなかったこと等の成長エントリー	自尊感情尺度平均は学習前の21.7から学習後は23.1に上昇した。しかし、成績低群は自尊感情が上昇しても自己効力感尺度平均が低下し、知識伝達教育に依拠している傾向があった。質的分析の結果から【達成感】が抽出され、ポートフォリオの効果として＜情報の収集＞＜情報の妥当性＞が見出された。ポートフォリオ学習はグループワーク等からの達成感を得て自尊感情も上昇した。しかし、成績低群の学生には教員のさらなる支援と肯定的フィードバックが必要であった。
	佐藤光栄 平栗智美 (2010) 16)	老年臨床看護の看護過程演習にプロジェクト学習を取り入れた学びを学生の成長報告書の分析から明らかにする	授業開始前にポートフォリオ評価と課題学習の説明。第一段階：グループ分け、事例選択。第二段階：選択事例を事前学習した内容と照らし合わせ、情報収集・アセスメント・看護問題抽出・看護計画立案。第三段階：看護計画の一部をテーマに沿い模擬患者に実施、結果から計画修正。この結果を踏まえ根拠ある看護援助の凝縮ポートフォリオ作成。第四段階：発表による「知の共有」、演習終了後に自分の学び・成長を各自のポートフォリオを俯瞰し、まとめグループ内で検討、提言したい内容を凝縮ポートフォリオとし発表、相互評価と質疑応答をした。最後に本授業の自己成長３点を記述した。	高齢者フィジカルアセスメントをもとにした情報収集、ゴールシート 初期計画立案・不足情報をもとにした再情報収集、看護問題、看護計画、演習計画（修正）、演習計画に沿って実施・評価・記録、看護過程で実施した看護の発表、検討会でのフィードバック（ここまでのものから凝縮ポートフォリオを作成する）、成長報告書（この演習を通し自分自身が成長出来た点３つ）	【課題学習を通しての学び】【ポートフォリオ評価を通しての学び】【グループ学習による効果】というカテゴリーが抽出された。【ポートフォリオ評価を通しての学び】のサブカテゴリーには「ポートフォリオで実習での参考となることを得た」という［プロジェクト学習能力］［自己評価と課題発見力］「凝縮ポートフォリオで、考えや気づきをまとめることができた」などの［自己表現力］と［自己肯定力］があった。
	渥美一恵 (2010) 17)	看護基礎教育における精神障害当事者参加授業がもたらす教育成果を、学生のポートフォリオより検討する	精神保健論で精神障害者参加授業を実施、その中でウォーミングアップのゲーム、当事者の語り、質疑応答を含めた。授業後、学びの内容をポートフォリオの「日々の授業記録」に記載させ提出。	ポートフォリオの「日々の授業記録」の学び内容、ポートフォリオのゴール（目標）	学生のポートフォリオのゴールに殆どが対象理解を挙げていた。付記として精神科デイケアの理解や今後の学習の為に、自己の考えを深めるがあった。ポートフォリオから得た学びの４分類は「知識」が65.4％と多く、次いで「感情」20.3％「価値観」12.2％「技術」2.1％であった。殆どの学生が複数の学びを包含して得ていた。
	前田由紀子 増田安代 (2006) 18)	グループワーク学習のプロセスを通して研究的思考と研究スキルの基礎的育成における学習効果と課題を明らかにする	精神看護学の授業初回：グループワーク（GW）のテーマを提示、ポートフォリオの説明とグループ編成。2回目：講義後に研究レポートの説明。GW計画書を1週間後に提出させ、GWへ。GW時には出席票（所要時間・参加メンバー・GWの内容・質問事項の記入）記載、GWの状況把握。発表会を設け（予め主体的な運営・プレゼン資料の作成方法・進行のマナー説明）当日は第三者評価を設定。最後にポートフォリオとアンケート提出。	研究計画書、グループワーク記録とグループワーク時の使用文献等の資料、発表原稿、研究レポートをA4ファイルに閉じさせた	ポートフォリオはインターネットの情報が多く、文献活用が少なかった。グループワークの討議内容は見られていたがグループ差があった。最終的な自己の見解は全員が記述していた。「自己研鑽」についてと「肯定的な自己評価」についてのカテゴリが得られていた。
	岩田みどり (2009) 19)	PBL・チュートリアル学習のポートフォリオシートから学習成果を明らかにし、セルフラーニングとの関連性やシートの評価機能を考察する	初回：資料から学習項目を抽出・分担し6回の学習計画立案。2回目：自己学習、3回目：各自プレゼンテーションし、学習項目のアセスメントを検討。4回目：自己学習、ロイのアセスメント別に情報整理。5回目：グループワークで全体像と問題決定。6回目：自己学習・看護計画を各自作成。7回目：各自の看護計画発表しグループ案を集約。8回目：自己学習・ポートフォリオシートに7回の学習を振り返り、学習内容を整理。１週間後、学習内容とポートフォリオシート提出。	自己学習行動（学習の出発点・事例への興味、調べた内容・項目、調べた方法、プレゼンテーションから学習したこと、学習行動の限界）、理解出来たこと（今回良く理解できた内容・項目、事例の考察）、解決しなかったこと、データベース・課題シート、ポートフォリオシート	プレゼンテーションから学習したことは【発表の学び】【対象の理解】【自己理解】が分類された。【発表の学び】の中から「説明、理解への不足の気づき」「復習の必要性や新しい事実の発見」を明確化できた。これは時己評価、再構築、活動への動機付けというポートフォリオの評価機能が再確認できた。
	宮崎貴子 岩田みどり (2006) 20)	PBL・チュートリアル教育における評価法の手がかりを探るためにポートフォリオシートの有効性を検討する	初回：提示した事例から学習項目を抽出し、その学習項目をメンバーで分業。2回目：プレゼンテーション資料作成。3回目：担当した学習項目をプレゼンテーション。4回目：自主学習した適応様式別アセスメントをもとにディスカッション。5回目：関連図作成。6、7回目：自主学習で行ってきた看護計画1-2を基にディスカッション。1週間後、ポートフォリオファイルとシート提出。	課題シート2種類、データベース、自主学習（発表）資料、全体関連図、看護計画、ポートフォリオシート（自己の学習行動、理解できたこと、解決しなかったこと）資料作成の際に必要となった文献のコピーや新聞の切り抜き	学生が良く理解したのは【事例病態のメカニズム】【疾患・治療経過に伴う症状の看護】【がん患者の心理・精神的経過に伴う症状の看護】【がん患者の心理・精神的援助】【発達課題】【看護診断プロセス】【その他】であった。【その他】には＜学習過程に関する経験＞＜学習状況の分析＞＜今後の学習に対する展望＞が抽出され、ポートフォリオシート導入は学生の学習達成度と学習態度、学生自身の学習目標を明確にできた。
	澁谷貞子 (2010) 23)	ラベルを活用したポートフォリオ評価が自らの学びを自覚して主体的に学ぶ方法を理解し、学習を継続する態度を養う効果について検討	初回：授業概要とグループワーク（GW）方法、ラベルワーク、ポートフォリオの説明。毎講義終了時に今日の学びをラベル記載の依頼。2・3回目：成人の発達課題のGW、4回目：まとめ、5～7回目：生活習慣病予防カルタ作成、8回目：カルタ取りとまとめ発表、9～11回目：説明指導パンフ作成、指導の実際とグループ発表。12～14回目：講義、15回目：自分のラベルから授業全部を振り返り、学びのプロセス図解をし、ポートフォリオ作成後自己評価。	毎講義の学びのラベル記録、発達課題のグループワーク発表からのコメントラベル、カルタ取りとまとめ発表、説明指導パンフ、指導の実際とグループ発表資料、ラベルをまとめたグループラベル新聞 自分のラベルを用いて授業全部の振り返り（できたこと、学びのプロセス図解）	評定尺度を用いた自己評価では全ての項目がそう思う・ややそう思うで80％以上を占めた。中でも「自己の成長を確認できた」はポートフォリオの作成過程からの評価と考えられた。自己成長の記載から【コミュニケーションがうまくなった】【Gwの意義】【考える力・視野拡大】【意識の変化】【知識が増え学びの態度が変化した】【看護感が深まった】の６つのカテゴリーが見出された。
	横山弘美 藪田素子 (2005) 24)	在宅看護論医療処置別看護の授業でポートフォリオにおける学生の自己教育力の変化と学習意欲変化を明らかにする	在宅看護論医療処置別看護の授業でグループワークのグループ編成した。初回：学習方法の理解に関する説明。効果的な話し合いができるように、教員が意図的に編成。事例選択はグループの希望に任せた。グループワークからプレゼンテーションへの流れを3回繰り返し、意見交換をした。毎回の授業終了後、授業参加の自己評価と意見・感想を提出。	学習計画、文献検索、プレゼンテーションの実施と意見交換、学習の追加や修正したもの、自己課題ノート	初回授業後は必要感や目的意識など「学習意欲」に影響する感想を64件得た。また「学習の困難性」を示す者もおり、9件中5件は自己教育力低群であった。授業終了後の感想は「達成感」等を得た。ポートフォリオにより自己教育力低群は学習過程の中で自律的な「自己の対象化」と「自己評価」が起こり、学習方法・学習内容の理解が進み「学習の技能と基盤」の領域が優位に上昇。ポートフォリオによる授業は学生の主体的学習の結果「できた」という達成感を得た。
専門科目：実習	石塚淳子 佐藤道子 (2006) 14)	１年生の基礎看護実習Ｉにラベルワークを用いたポートフォリオ作成のプロセスとその評価法の試みを報告する	初日：実習オリエンテーションでポートフォリオ作成の意義、ラベルワークに関する説明。毎日の実習後に感想ラベル記入とカンファレンスで体験共有した。司会者は全員分の感想ラベルからラベル新聞を作成し、コピーを配布した。学内まとめではグループ全員分の感想ラベルから【ラベル図解】を作成、これをクラス全体に発表、ディスカッションした。発表会後、感想ラベルから個人で【学びのプロセス図解】を作成し、グループメンバー間で発表し、コメントをしながら自己の学びを振り返った。	ラベル、ラベル新聞、ラベル図解（縮小版）、学びのプロセス図解、自己学習したノート、資料・文献のコピー、実習記録、レポート、発表会の配布資料など	一生の宝物となった。新聞にどのようなコメントを書いてくれるのか楽しみだった。振り返ることで自分の中でどの様な変化が起こっていたのか整理できた。自分の中に何が欠けていて、これからどのような目標を持って勉強していけば良いのか、はっきりした。他の人の考えが良く分かった。
教育課程全般・その他	平野ゆき子 山中真弓 岡部幸枝 (2012) 21)	ポートフォリオの取り組み後の質問紙調査から、クラス運営に導入したテーマポートフォリオに対する学生の認識を明らかにする	4月中旬：ポートフォリオの目的・方法・スケジュール説明。目指す看護師像に向けてテーマ・ゴール・ビジョン・計画の記述。4月下旬：サブテーマに関するグループワーク（健康・学習・技術等から）。各自が目標（ゴール）に向けポートフォリオを実施（ファイル適宜提出）、7月：中間発表会（サブテーマ毎に発表、他者評価・自己評価）し、学びを基に各自が目標（ゴール）に向けポートフォリオ継続（適宜ファイル提出、）翌年4月：最終発表会（１年間の振り返り、サブテーマ毎発表）。	メインテーマ：目指す看護師像サブテーマに関するグループワーク記録（健康・学習・技術に関すること）をサブテーマ毎に発表、資料A3,１枚・他者評価・自己評価、各自が目標（ゴール）に向けて学習した資料、1年間の振り返り・成長したこと、サブテーマ毎に発表したもの	「サブテーマを自分で決めたことは良かった」の肯定的回答は100％であった。次いで「取組みを今後に活かすことができると思う」が97％であった。否定的回答では「ポートフォリオは負担にならなかった」が88％であった。学生はゴールであるサブテーマを学生自身が決定したことで自らが意識し取り組めて自信や達成感を得られた。達成感を得られたり、楽しかったと感じているが、過密なカリキュラムであることから、意識しての自己評価が難しく、負担と感じていた。
	吾郷美奈恵 石橋照子 三島三代子, 他 (2011) 22)	入学後２年間活用した学生から「プロフィール」「学びの蓄積」「課題提出」「参考資料」の機能について評価を得る	だんだんEポートフォリオのシステムを2年間活用させる。全学生にモバイルパソコンも貸与された。機能は「プロフィール」「学びの蓄積」「課題提出」「参考資料」でインターネットの環境下でいつ、どこでも利用可能。各科目ごとにマトリックスがあり、学びの蓄積と教員の支援が適宜なされる。基本的技術の登録は到達レベルにより３つに分類して登録する。	機能は「プロフィール」「学びの蓄積」「課題提出」「看護基本技術自己評価」「その他（参考資料含む）」、インターネットの環境下でいつ、どこでも利用可能、各科目ごとにマトリックスがあり、学生の学びの蓄積と教員の支援が適宜なされる	システム利用で「課題提出」が最も多く100％であった。次いで「学びの蓄積」「参考資料」の順であった。最も高評価は「課題提出」で良い・大体良いが1年次79.7％、2年次82.9％。2年次に良い・大体良いになったのは「参考資料」62.9％であった。2年次生の機能利用の有無別比較では、4機能の利用者が利用しなかった者よりも高評価で、「学びの蓄積」と「参考資料」は有意差を認めた。

に用いたポートフォリオは、作成のガイドライン、ゴールカード、学び愛カード、カンファレンスのガイド・資料・リフレクションシートとスピーチ用の下書きと原稿を含んでおり[11]、シリーズ展開している教授で取り入れていた。

2）専門科目：講義・演習

老年看護学2件、精神看護学と基礎看護学各1件にゴールシートが含まれていた[13,15-17]。老年看護学と基礎看護学はシリーズ展開している教授に取り入れていた。8件はグループワークを取り入れており、グループワーク時の記録もポートフォリオに含めていた[13,15,16,18-20,23,24]。振り返りや学び・成長を俯瞰できるシートは6件に含まれており、いずれもシリーズで展開された授業であった[13,15,16,19,20,23]。授業内に取り組まれた成果物は9件全てに含まれていた[13-16,18-20,23,24]。成果物作成に向けて使用した自己学習・資料を含んでいたのは基礎看護学1件、老年看護学1件、成人看護学2件、精神看護学1件、在宅看護学1件の計6件であった[13,15,18-20,24]。いずれも学生にプレゼンテーションを課した教授内容となっていた。中でも精神看護学で作成したポートフォリオの資料は文献よりもインターネットの情報が多かった[18]。また、学びだけではなく、できなかったこと等の課題を記載させたものを含んでおり[13,15,19,20,23,24]、いずれも自己評価を求める教授内容となっていた。さらに、成果物の修正や自己学習の追加分を含んでいたのは基礎看護学1件、老年看護学1件、在宅看護学1件の計3件であった[13,16,24]。いずれも修正の機会を教授に取り入れていた。

3）専門科目：実習

基礎看護実習Ⅰに用いたポートフォリオの内容は、ラベル、ラベル新聞、ラベル図解、学びのプロセス図解、自己学習ノート・資料、実習記録、レポート、発表会の配布資料であった[14]。教授内容には振り返りの機会や学びを明確にすること、学生と教員の共同評価の機会を取り入れていた。

4）教育課程全般・その他

クラス運営にポートフォリオを用いた1件は、目指す看護師像に向けたゴールシートやグループワーク記録、1年間の振り返りと成長したことについての記録を含んでいた[21]。成果物に関してはWEBを用いたポートフォリオとクラス運営の2件ともに含まれていた[21,22]。WEBを用いたポートフォリオはプロフィール、学びの蓄積といった成果物の登録、課題提出と提出受付、看護基本技術評価、その他では参考資料の登録ができるシステムがあった[22]。

4. 学生の評価

1）一般教養科目

英語表現（英作文・スピーチ）の授業にポートフォリオを取り入れた結果、学生からやりがいがあるという評価であったが、必ずしも好意的な反応が得られなかった。しかしながら、ポートフォリオ活用学習が自己調節学習の態度養成に効果があることが明らかになっていた[11]。また、同様に英語教育への活用にむけたポートフォリオのガイドライン設計に関するアンケート結果からは、ゴールカードの記載は学生が慣れてからにして欲しいことや、カンファレンスで友達・教員からアドバイスを受けたいという意見が挙がっていた[12]。

2）専門科目：講義・演習

老年看護学、成人看護学、在宅看護学各1件で、ポートフォリオを取り入れた結果、学生自らが意識して学習に取り組めるようになり、達成感が得られていた[15,20,24]。ポートフォリオを用いた教授の実施前と実施後を比較すると、自尊感情尺度平均の上昇が見られていた[15]。また実施後の学生の記述から「自信になった」や【自己肯定力】が抽出されていた[13,16]。さらに学びをポートフォリオシートに蓄積させていた成人看護学3件、基礎看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学各1件では、振り返りにより今後の課題が明確化し、今後の学習に活かせるという意見が挙がっていた[13,15,18-20,23,24]。また老年看護学での1件は各自のポートフォリオを俯瞰して凝縮ポートフォリオを作成することで、考えや気づきをまとめることができたという意見が挙がっていた[16]。専門分野に関係なくシリーズ展開された教授に取り入れられているものでは、学習のための情報や自己学習及び追加学習、学びのラベル化等がポートフォリオに含められるので、それにともなって知識や学びが増えていく実感が持てていた[13,17,23]。

成績低値群の学生は、ポートフォリオ学習後に自尊感情が上昇しても、自己効力感が低下し、知識伝達教育に依拠していた傾向があったことから、教員によるさらなる支援と肯定的フィードバックが必要[15]と示されていた。またポートフォリオの内容を振り返る作業に時間をとられ、課題作成が間に合わなくなるなど、ポートフォリオ作成を負担に感じた学生もいた[13]。

3）専門科目：実習

基礎看護実習Ⅰにおいてラベルワークを用いた学生の評価には、自作のラベル新聞が一生の宝物となったという意見があった[14]。振り返りによって自分の中でどのような変化が起こっていたのか整理できた。自分の中に何が欠けていて、これからどのような目標を持って勉強していけば良いのかはっきりしたことや、1日ごとに自分の反省点の評価ができて次につながったという意見が挙がっていた。

4）教育課程全般・その他

クラス運営にポートフォリオを用いた学生の評価では、自己の活動・成果をまとめる力がつく、取り組みを今後に活かすことができているという意見が挙げられていた。課題作成が間に合わなくなるなど、ポートフォリオ作成を負担に感じた学生もいた[21]。WEBを用いたポートフォリオについての学生の評価では「課題提出」を多くの学生が利用しており、次いで「学びの蓄積」の順に見られた。またこれらの機能を多く利用した者はそうでない者に比して評価が高かった[22]。

Ⅳ　考察

1. 看護基礎教育におけるポートフォリオの効果的な活用

今回の研究によってポートフォリオの効果的な活用のために、初回授業時はポートフォリオの意義と作成方法を学生に説明する重要性が明らかになった。複数回からなる授業の中間時期には介入すること、最後にはポートフォリオの内容が俯瞰できるようにファイリングの工夫を説明することの必要性が明らかになった。また、成長の度合いをポートフォリオから自己評価する際に、反省し、落ち込むだけものになっては効果が無いため、学習のプロセスから今後に活かせる振り返り方[25]を学生に伝えていく必要がある。最近の学生は数量的な評価やテスト・レポートで学びを完結することに慣れていることから、ポートフォリオを活用して学ぶことや自己評価するには困難感を生じる恐れがある。そのため、教員が意図的にポートフォリオを用いた学習の意義を説明することや作成内容の助言を学生に行い、学習を進めることによって知識や学びが増える実感を持たせる必要性がある。さらに、早期から学生にポートフォリオを活用した学習を身につけさせるために、看護基礎教育の中でポートフォリオを用いた教授を取り入れる時期や学習を反復させる方策を検討していくことが望まれる。

学生はポートフォリオを用いた中で、学習目標（ゴール）を学生自身で設定でき、学生自らが意識して学習に取り組めるようになったと、達成感を得ており、ポートフォリオで得られる効果と合致していた[3,25]。学生それぞれがゴール設定をすることで、主体性が出現し、自分の目標に向かって具体的な学習を選択しながら前向きに学習が進むのではないかと思われた。また、学習の際に用いた資料、学び等を時系列に綴じた元ポートフォリオから再構築して自己の目標を反映させた凝縮ポートフォリオの作成をしていくことで、学生自身の考えや気づきをまとめるといった自己表現力の学びがされていた[16]。学士課程においてコアとなる看護実践能力で求められる援助的関係を形成する能力、計画的に看護を実践する能力[26]を凝縮ポートフォリオ作成から養える可能性が示唆された。

一方で、学生の一部はポートフォリオを用いることに好意的な反応が得られなかったこと、ポートフォリオの自己学習の資料がインターネットで検索したものに偏っており、参考文献の活用が少ない傾向がみられていた。学生は他にもやらなければいけない課題があること、ポートフォリオが主たる成績点として反映されていない現状より、ポートフォリオ作成に費やした時間とそれが報われることとの間に大きな不均衡を感じている[27]と言われている。ポートフォリオが客観的な成績評価の対象となり得るかについて調査[28]がされ始めているように、ポートフォリオを今後、主たる成績判定に活用可能か検討していく必要性がある。

2. 小児看護学教育への活用

ポートフォリオは一般教養科目、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学と地域・在宅看護学の教授に取り入れられていたが、小児看護学での報告はなく、その理由は今回の結果では明らかにならなかった。しかし、さまざまな専門分野の教授にポートフォリオが活用されており、小児看護学においても活用の可能性が示唆された。小児看護過程の学びをポートフォリオを用いて振り返ることによって、小児看護に必要な疾患理解、発達課題、日常生活、家族の理解に関する情報収集の積み上げ状況や統合への不足点を見出すことにつなげられるため、教員が学生の学習理解度や思考をポートフォリオで確認できることが考えられた。また実習において子どもやその家族と関わっていくことや子どもの反応を読み取ることについて指導にポートフォリオを用いて振り返りを促すことで、学生が自分の変化を見出すことにつなげられ、対象理解や小児とのコミュニケーションの促進を支援できる可能性が考えられた。

Ⅴ　結論

1. ポートフォリオは看護基礎教育のさまざまな専門分野において取り入れられており、ポートフォリオを用いた学生の学びは、自身が目標設定し目標達成への自主的な学習に結び付くことが示された。

2. ポートフォリオを用いた教授は学生の自発的な学びにつながる一方で、学生の一部からはポートフォリオの作成に時間がとられ、本来の課題が間に合わなくなるなど、負担感が生じていた。

3. ポートフォリオを教授に活用していくには、看護基礎教育の中でポートフォリオを用いた教授を取り入れる時期や学びを反復させる方策を検討していく必要がある。また、教授の際には、学生にポートフォリオを用いることの意義や自己目標の設定、作業過程の説明を十分に行っていくことの必要性が示唆された。

4. ポートフォリオを今後、主たる成績判定に活用可能か検討していく必要性がある。

5. 小児看護学の看護過程や実習においてポートフォリオを用いることにより、学生の思考の変化や対象理解を促すことにつなげられることが考えられた。

引用文献

1）文部科学省高等教育局医学教育課看護教育係：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告，2011.

2）鈴木敏恵：ポートフォリオが看護教育を変える－与えられた学びから意志ある学びへ－，看護教育．48 (1)：10-17，2007.
3）大関信子：英国の卒後教育での実際，Quality Nursing．6 (3)：244-252，2000.
4）小島さやか：文献から見た看護教育におけるポートフォリオ評価活用の現状，新潟清陵学会誌．4 (3)：101-109，2012.
5）安川仁子：看護教育におけるポートフォリオの活用－学習のプロセスを重視した評価－，看護教育．48 (1)：18-23，2007.
6）川上ちひろ，阿部恵子，藤崎和彦，他：保育園児・妊婦との継続的交流体験の教育的効果：医療系学生の気づきと学び，日本小児科学会雑誌．115 (1)：132-137，2011.
7）吾郷美奈恵，三島三代子，梶谷みゆき，他：看護基礎教育における自己教育力育成に向けた“だんだんｅポートフォリオシステム”の開発，島根県立短期大学部出雲キャンパス研究紀要．3：105-112，2009.
8）永田真弓：臨地実習における教育・学習編　学生が子どもとの関わりに悩むとき，看護教育．53 (2)：95-97，2012.
9）岡田満，坂田尚己，竹村司：ポートフォリオを取り入れた小児科クリニカル・クラークシップ，小児科臨床．62 (5)：917-923，2009.
10）西屋克己，鈴木康之，嶋緑倫：小児科卒前臨床実習におけるポートフォリオの教育効果，医学教育．43補冊：94，2012.
11）北條礼子，松崎邦守：教授ツールとしてのポートフォリオ活用による英語表現（英作文・スピーチ）学習の効果－看護学生を対象にshow and tell手法を用いた試み－，上越教育大学研究紀要．26：287-297，2007.
12）北條礼子，松崎邦守：EFL表現活動における教授ツールとしてのポートフォリオのガイドライン設計に関する研究，上越教育大学研究紀要．22 (2)：395-406，2003.
13）吉田礼子：看護過程演習の授業評価－メタ認知を意識した教授方略と看護過程展開の理解度－，東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集．19：50-59，2010.
14）石塚淳子，佐藤道子：ラベルワークを用いたポートフォリオ評価法の試み，聖隷クリストファー大学看護学部紀要．14：63-72，2006.
15）尾ノ井美由紀，伊藤美樹子，白石龍生，他：協同学習方法を用いたポートフォリオ学習の効果に関する研究，大阪大学看護学雑誌．18 (1)：17-23，2012.
16）佐藤光栄，平栗智美：「高齢者の看護過程」にポートフォリオ評価を導入しての学び－成長報告書の分析から－，湘南短期大学紀要．21：89-93，2010.
17）渥美一恵：看護基礎教育における精神障害当事者参加授業の教育成果－ポートフォリオ「日々の授業記録」による検討－，日本看護学会論文集 看護教育．41：71-74，2011.
18）前田由紀子，増田安代：精神看護学におけるグループワークの学習効果に関する検討－研究的思考と研究のスキルの基礎的育成にむけての試み－，九州看護福祉大学紀要．8 (1)：113-124，2006.
19）岩田みどり：PBL・テュートリアル学習のポートフォリオシートからみた学習成果－プレゼンテーションに関する考察－，日本赤十字看護学会誌．9 (1)：35-41，2009.
20）宮崎貴子，岩田みどり：PBL・テュートリアル教育におけるポートフォリオシート導入の試み－記述内容からみた学習項目・ポートフォリオシートの有効性の検討－，日本赤十字武蔵野短期大学紀要．19：31-36，2006.
21）平野ゆき子，山中真弓，岡部幸枝：看護基礎教育のクラス運営に導入したテーマポートフォリオに対する学生の認識－実施後質問紙調査から－，日本看護学会論文集看護教育．42：132-135，2012.
22）吾郷美奈恵，石橋照子，三島三代子，他：看護基礎教育における自己教育力育成に向けた“だんだんｅポートフォリオ”システムの活用，島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要．6：101-112，2011.
23）澁谷貞子：ラベルを活用したポートフォリオ評価の効果について－主体的な学習態度を養う－，医療保健学研究．1：117-126，2010.
24）横山弘美，薮田素子：授業におけるポートフォリオの導入－学生の自己教育力の変化と感想からみた学習意欲の変化－，中国四国地区国立病院附属看護学校紀要．1：52-63，2005.
25）鈴木敏恵：看護教育を変えるポートフォリオ　学校から現場まで－成功の秘訣は意志ある学び，北日本看護学会誌．9 (2)：4-7，2007.
26）文部科学省高等教育局医学教育課看護教育係：学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標，大学における看護系人材育成のあり方に関する検討会最終報告，2011.
27）Mitchell M：The views of students and teachers on the use of portfolios as a learning and assessment tool in midwifery education, Nurse Educ Today.14 (1)：38-43, 1994.
28）吾郷ゆかり，吾郷美奈恵，山下一也，他：在宅看護学におけるポートフォリオ評価，島根県立短期大学部出雲キャンパス研究紀要．2：117-124，2008.